

ろうさい ニュース

令和元年

10 月号

第 422 号

日ごろから、当院の運営に御協力いただき、誠にありがとうございます。
また、当院に患者さんをご紹介くださいますと、重ねて御礼申し上げます。

■看却下（かんきゃっか）—地域医療を足元から見直す—

先の話ですが、当院主催で、来年の12月5日(土)、6日(日)にアクトシティ浜松コンgresセンターにて、第68回日本職業災害医学会学術大会を開催することになりました。従来、日本職業災害医学会学術大会のテーマは「勤労者」や「災害」などの文言を含む言葉が一般的ですが、マンネリ感のあるテーマを避け、三文字熟語である「看却下」を選びました。これは仏教（禅宗）の言葉で、「自分の足元を見る」、「自分自身の原点に還る」という意味です。

この「看却下」を学術集会のテーマとしただけでなく、これからの当院の「姿勢」を示すキャッチフレーズとし、地域医療を足元から見直したいと考えています。

幸い皆様のおかげで、昨年度後半から1日平均入院患者数がかなり増加しましたが、一方で、院内の投書箱には十年一日が如く、接遇に対する不満が寄せられています。患者さんからだけでなく、地域の先生方や訪問看護ステーションからしばしばお叱りの言葉を頂戴いたします。

全国規模の学術大会の開催を引き受けることは、当院がアカデミズムに立脚したハイレベルな病院であることを、アピールする機会だと考えていましたが、心が通っていないとよい医療は提供できません。当院職員一人一人が、足元を見直し、原点に立ち戻ることで、「心を癒せるハイレベルな病院」を目指したいと考えています。これからもご指導ご鞭撻を賜れますようお願い申し上げます。

学術大会に関しては、これから準備に入ります。地域に根差した手作りの学術大会を予定していますので、こちら皆様方のご支援を賜りたく存じます。講演やシンポジウムなどのテーマや演者に関しまして、ご意見、ご提案がございましたら事務局（担当：総務課 堀井 <syomu5@hamamatsuh.johas.go.jp>）までお知らせください。

病院長 鈴木 茂彦

■循環器内科の治療について

彦根市民病院 循環器内科主任部長 綿貫 正人

<前回からの続き>

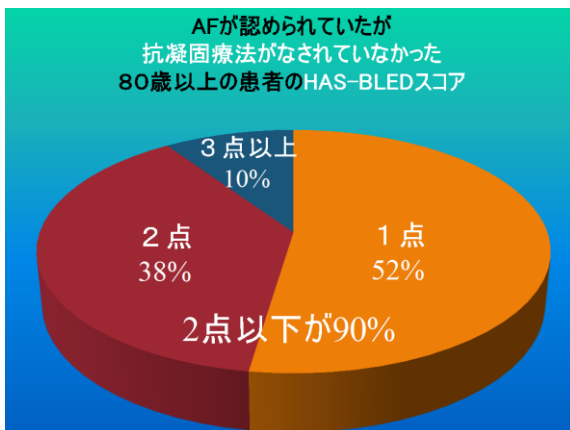
(図 6)

HAS-BLEDスコア		点数
Hypertension	(収縮期血圧>160mmHg)	1
Abnormal renal/liver function	(腎機能障害、肝機能障害 各1点)	1~2
Stroke	(脳卒中)	1
Bleeding history	(出血歴)	1
Labile INR	(不安定なINR)	1
Elderly	(年齢>65歳)	1
Drugs, Alcohol	(抗血小板薬やNSAIDs併用、アルコール依存、各1点)	1~2
合計点		0~9

3点以上 ハイリスク

出血傾向を判断する指標として HAS-BLED スコア (図 6) があり、3 点以上がハイリスクとされています。

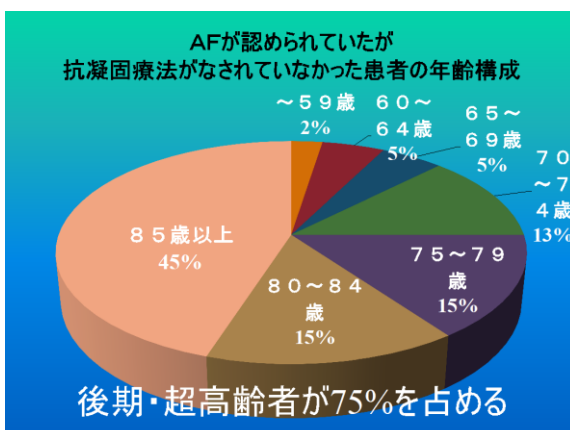
(図 7)



しかしながら 3 点以上の患者は 10% のみで、9 割の症例で出血傾向が高いと判断したことが抗凝固を行わなかった理由ではありませんでした。(図 7)

それでは抗凝固療法を避けた本当の理由は何なのでしょう。

(図 7) AF



AF が認められていたにも関わらず抗凝固療法がなされていなかった患者の年齢構成を調べてみると、後期・超高齢者が 75% を占めていました。

抗凝固療法を避けた理由をカルテ内で探してみますと、多くの症例で『高齢のため抗凝固療法を控える』とのみ記載されていることが確認されました。

腎機能低下や出血傾向が問題ではなく単に高齢であるために控えられていた症例が大半であることが判明しました。

高齢患者は脳梗塞も生じやすいが、脳出血を代表とする出血も生じやすい。

抗凝固療法の効果は表に出ませんが、出血が生じると薬のせいだと患者や家族から非難され易いこと、また超高齢者に対する抗凝固療法のエビデンスが乏しいことなどが、抗凝固療法を控えた背景として考えられます。

心房細動に対する抗凝固療法を唱道している最前線の医師たちが、自身の臨床現場では及び腰であったということは今後の治療に生かすべきでしょう。

今回は、抗凝固療法を行っていたにも関わらず、なぜ心原性脳梗塞を生じてしまったのかを検討し興味深い結果が得られましたので紹介したいと思います。

■当院のイベント情報等

第41回浜松EAST医療連携セミナーを開催しました

令和元年9月4日(水)に浜松EAST医療連携セミナーを下記のとおり開催しました。多くの方に御出席いただきまして、ありがとうございました。

記

演 題：「呼吸器内科感染症の診断における注意すべきポイント」(19:30～)

演 者：浜松労災病院 院長補佐兼呼吸器内科部長 豊嶋 幹生 先生

演 題：「楽しく学べる感染対策の重要ポイント」(19:45～)

演 者：浜松医療センター副院長兼感染症内科部長 矢野 邦夫 先生

休日女性がん検診のお知らせ

「平日は忙しくて受診が難しい」という女性のために、休日に女性がん検診を下記のとおり行います。

お子様連れで受診される方は、予約時にお知らせください。

記

日 時：令和元年10月6日(日) 8:00～12:00

予約制：事前にお電話でお問い合わせください。

申込み：電話 053-462-1211 健康診断部

締切り：令和元年10月4日(金)

第40回市民公開講座の開催について

令和元年10月31日（木）に下記のとおり開催いたします。皆様の参加をお待ちしております。

記

日時：令和元年10月31日（木）14：00～

場所：浜松労災病院6階大会議室

演題：「乳がんのお話」

演者：乳腺外科部長 加賀野井 純一 先生

※ 12月は、脳神経外科部長の講演を予定しております。

第42回 浜松EAST医療連携セミナーの開催について

令和元年11月20日（水）に下記のとおり開催いたします。皆様の参加をお待ちしております。

記

日時：令和元年11月20日（水）19：30～

場所：浜松労災病院6階大会議室

演題1：世界糖尿病デーに合わせた当院から地域への発信

演者：浜松労災病院 栄養管理部 室長 原田 雅子

演題2：腎性貧血の診断と治療

演者：いそざきファミリークリニック 院長 磯崎 泰介 先生

独立行政法人 労働者健康安全機構

電話 053-411-0366

受付時間

浜松労災病院 地域医療連携室

fax 053-411-0315

月～金 8:15～18:00 土 8:15～12:00